

「第 49 回日本緑化工学会大会」案内（第 3 回）

—日本緑化工学会設立 30 周年記念大会—

第 49 回日本緑化工学会大会運営委員長 吉崎真司

第 49 回日本緑化工学会大会を下記のとおり開催します。今回は、日本緑化工学会設立 30 周年記念大会となっておりますので、多数の皆様のご参加をお待ちしています。

1. 大会概要

(1) 日程

2018 年 9 月 15 日（土）

09:00～	受付開始
09:00～10:00	理事会
09:30～15:30	ポスター展示開始
10:00～16:00	書店、資材・工法展示
10:00～11:30	口頭発表(1)(2)
11:30～12:30	総会・学会賞授賞式
12:30～13:30	ポスター発表コアタイム①（論文、技術報告、研究交流発表会）
13:30～15:30	研究集会(1)(2)
15:30～18:00	シンポジウム 「持続可能な都市創造に果たすみどりの役割」 基調講演：持続可能な都市創造に果たす「みどり」の役割 東京都市大学特別教授 涌井史郎
18:00～20:00	懇親会

2018 年 9 月 16 日（日）

09:30～15:00	ポスター展示開始
10:00～12:00	口頭発表(3)
10:00～14:30	書籍、資材・工法展示
12:00～13:00	ポスター発表コアタイム②（論文、技術報告、研究交流発表会）
13:00～15:00	研究集会(3)
15:00～15:30	閉会式（挨拶・優秀ポスター賞表彰式） （応募者は、優秀ポスター賞表彰式までお残りください。）

2018 年 9 月 16 日（日） 15:30～17:30 評議員会

2018 年 9 月 17 日（月） 現地見学会

10:00	東京都市大学夢キャンパス集合（東急田園都市線二子玉川駅徒歩 3 分）
10:00～11:00	二子玉川ライズのまちづくりとランドスケープ解説

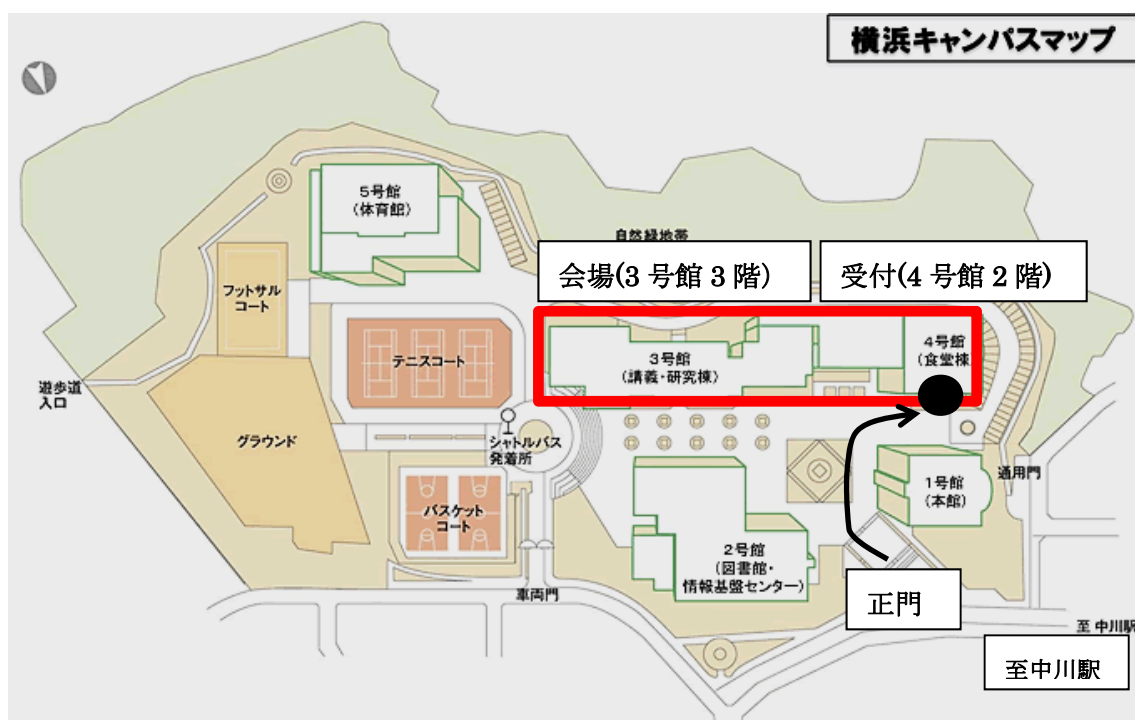
- 11:00～12:30 二子玉川ライズ巡回見学
- 12:30～13:00 昼食（持参）
- 13:00～14:30 テーマごとに現地見学会開催
- 14:30 東京都市大学夢キャンパスに再集合
- 14:30～16:00 意見交換会及びテーマ別発表会開催
- 16:00 解散

(2) 会場（9月15日，16日）

東京都市大学横浜キャンパス (<http://www.yc.tcu.ac.jp/access/>)

(横浜市都筑区牛久保西 3-3-1, 横浜市営地下鉄中川駅下車, 徒歩7分)





## 2. 参加費・参加申込方法

### (1) 参加費

当日受付と前納受付があります。前納の場合、大会参加・懇親会には割引があります。会員の皆様にはできる限り前納受付をしていただきますようお願い致します。

		正会員	学生会員	非会員 (一般)	非会員 (学生)
大会参加	当日	5,000円	500円	7,000円 (資料含む)	1,500円 (資料なし)
	前納	4,000円	500円	—	—
懇親会	当日	5,000円	1,000円	5,000円	1,500円
	前納	4,000円	1,000円	—	—
現地見学会 (要事前申込)	無料	無料	無料	500円	無料

※ 賛助会員の方は正会員と同等の条件でお申し込みいただけます。

※ 非会員（大学院生，大学生，高校生）の方も，資料（論文・技術報告の印刷された大会特集号）を当日受付にて2,000円でお買い求めいただけます。

### (2) 前納申込方法

郵便局にて払込取扱票に必要事項をご記入の上，お振り込みください。払込取扱票は必ず1名につき1枚としてください。

**【前納期限】 2018年9月10日（月）まで延期されております。**

前納振り込みされた参加者は，その後できるだけ早い時期に，大会運営委員会宛にメールで以下の情報をお知らせください。なお，メールの表題を「前納申込」としてください。

前納振込とメール送信を持って本大会の事前申込が完了します。

〔記載内容〕

- 1) お名前 [ふりがな]      2) ご所属
- 3) 会員種別・会員番号（学会誌送付時に住所・氏名の下に記入）
- 4) 振込金額・内訳（大会参加費・懇親会費の区別）
- 5) 振込人名義
- 6) 連絡先（住所，電話番号（見学会参加者は携帯電話），FAX 番号，メールアドレス）

〔送信締切〕 2018年9月10日（月）に延長されています。

〔払込先〕 銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900 店番：019

預金種目：当座                      店名：〇一九（ゼロイチキウウ）

口座番号：0750454

（加入者名）日本緑化工学会大会事務局

（郵便振替）00110-4-750454

いったん納入された大会参加費・懇親会費等は基本的に返金できません。

### 3. 大会プログラム

9月	場所	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	
		0	30	0	30	0	30	0	30	0	30	0	30
15日 (土)	4号館2階 にて受付	大会実行委員会（大会受付）											
	33C	大会事務局											
	32A								シンポジウム				
	33B	理事会											
	32A					総会							
	33I			□頭発表(1)									
	33K			□頭発表(2)									
	33I						研究集会(1)						
	33K						研究集会(2)						
	4号館2階 学生ホール	ポスター 展示開始		コアタイム		ポスター 展示終了							
		資材・工法展示											
		書籍販売											
	4号館1階 食堂											懇親会，表彰式	
	33H	休憩室											
33J	託児施設												
16日 (日)	4号館2階 にて受付	大会実行委員会（大会受付）											
	33C	大会事務局											
	33D											編集委員会	
	4号館2階 学生ホール	ポスター 展示開始		コアタイム		ポスター 展示終了							
	33I			□頭発表(3)									
	33I						研究集会(3)						
	32A								閉会式				
	33K								評議員会				
	4号館2階 学生ホール	資材・工法展示											
		書籍販売											
33H	休憩室												
33J	託児施設												
17日 (月)	二子玉川周辺	現地集合（東京都大学夢キャンパス）											

#### 4. 研究発表会（論文・技術報告）

■論文・技術報告 口頭発表① 9月15日（土）10:00～11:30（発表12分，質疑応答3分）

◇ 場所：3号館3階33I教室

No.	タイトル	著者	開始時刻
O-01-A	10種類の草本植物の根系を含む土供試体のせん断特性	宗岡寿美・下田誠也・山崎由理・木村賢人・辻 修	10:05
O-02-A	都市近郊コナラ二次林での主要高木性樹種の枯死状況とその影響要因	田端敬三・蔵本裕介・白井佑季・奥村博司	10:20
O-03-A	葉緑体 DNA の遺伝変異を用いた日本産海浜植物6種の地域差検討	富田基史・小林聡・阿部聖哉・津田その子	10:35
(小休憩)			
O-04-A	分布南限地帯におけるハマナス群落の構造変化と保全管理	永松 大・山中雪愛	10:55
O-05-A	屋上緑化の雨水流出抑制機能に植物種の違いとバイオチャーの利用が与える影響	麥田隼希・土屋一彬・松岡達也・山田晋・大黒俊哉	11:15

■論文・技術報告 口頭発表② 9月15日（土）10:00～11:30（発表12分，質疑応答3分）

◇ 場所：3号館3階33K教室 ※O-10-TとO-17-Tの発表日が変更になりました

No.	タイトル	著者	開始時刻
O-06-A	都市部に植栽された3種の広葉樹の樹冠遮断量評価	長野龍平・南光一樹・十河潔司・杉本英夫	10:05
O-07-T	イオンメーターによる土壌水中の硝酸態窒素測定の有効性の検討	古澤仁美・八代田千鶴・横田勉・高橋一英	10:20
O-08-T	砂州上の白砂青松の景勝地におけるカラナデシコの生育立地特性	大澤啓志・西口美菜子	10:35
(小休憩)			
O-09-T	コナラ二次林に生育するキンランとギンランとササバギンランの20年間個体モニタリング	寺井学	10:55
O-17-T	強度間伐を実施したヒノキ林の相対照度と外来牧草播種による早期植生回復の可能性	田中淳・上石有吾・佐藤威臣・横溝和則	11:15

■論文・技術報告 口頭発表③ 9月16日(日) 10:00~12:00(発表12分, 質疑応答3分)

◇ 場所: 3号館3階33I教室 ※O-10-TとO-17-Tの発表日が変更になりました

No.	タイトル	著者	開始時刻
O-11-T	東京オリンピックマラソンコースにおける観客の熱的快適度の推定	平林聡・今村史子・常松展充・阿部勉・市橋新・徳江義宏・森岡千恵	10:05
O-12-T	自生地復元を目的としたラン科植物の種子繁殖法の検討—種子スティックによるキンラン ( <i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.)Blume.)の野外播種の効果—	山崎 旬・庄司顕則・伊藤彩乃・松本竹吾・中沢優太・内野はるか・棚橋美緒	10:20
O-13-T	短期的塩水浸漬がクロマツ ( <i>Pinus thunbergii</i> Parl.)種子の発芽および出芽へ及ぼす影響	伊東日向・吉崎真司	10:35
O-14-T	横浜市における街路樹の現況と課題	藤崎健一郎・山内裕貴	10:50
			(小休憩)
O-15-T	突き固め条件を変えたときの人工軽量土壌の物理性評価	屋裨下亮・太田祥子・北脇優子・小倉満	11:10
O-16-T	室内緑化植物個体の炭素収支評価法に関する検討	小島倫直・佐久間 護	11:25
O-10-T	富士山南麓における遺伝的多様性に配慮した森林復元のための種子採取の実績報告	中村華子	11:40

■論文・技術報告 ポスターセッション① 9月15日(土) 09:30~15:30

◇ 場所：4号館2階(受付の後ろ側) 学生ホール/コアタイム(12:30~13:30)

No.	タイトル	著者	応募
P-01-A	天塩川下流における堤防法面緑化に適用可能な在来植物と導入工法	谷瀬 敦 新目竜一	
P-02-A	ケンタッキーブルーグラス( <i>Poa pratensis</i> L.)の根系が細粒土のせん断強度に与える影響	宋 白楊・中村 大・川口貴之・川尻峻三・山口 滉平・山下 聡	
P-03-A	根系指標によるもみ殻灰混和改良土の緑化基盤材としての性能評価	島本 由麻, 鈴木 哲也	
P-04-A	開園40年の東京港臨海部海上公園における緑地管理の差異が土壌理化学性に及ぼす影響	前田健蔵・戸田浩人・崔東壽	○
P-05-A	外生菌根菌を接種したカシ類実生の造林放棄地における成長	香山雅純・山中高史	
P-06-A	ニセイカウシュツペ山と函岳におけるエゾコザクラの葉緑体DNAハプロタイプの決定とそれらハプロタイプの分布境界の明確化	原 悠里・我妻尚広・岡本吉弘・森 志郎	
P-07-A	市街地のハードスケープに生育するシダ植物のハビタット選好性に関する基礎的研究	村上 健太郎・森本 幸裕	
P-08-A	屋上緑化芝地における炭素含有量, 土壌微生物活動および窒素含有量の経年変化	黒沼尊紀・任倩玉・石原竜彰・孔大徳・東島一成・安藤匡哉・渡辺均	○
P-09-A	都市型ビオトープ池での硝酸イオン吸着型水質浄化装置による水生昆虫相への影響	大澤啓志・井上 剛・瀧 寛則・屋柵下 亮・天石 文・林 聡・横山理英	
P-10-A	ニホンツキノワグマによる剥皮害を受けたスギ樹幹における腐朽の進行	大島潤一・江連康弘・飯塚和也・石栗 太・横田信三	
P-11-A	オンラインアンケートを用いたオフィス緑化に対する勤務者の意識調査	矢動丸琴子・岩崎 寛	○
P-12-A	大都市圏のオフィスワーカーへのアンケート結果から見たオフィス室内の緑への量的評価と希求度および満足度	加藤祥子・羽原康成・合掌 顕・下村 孝・松原斎樹	
P-13-A	都市公園における利用行動の多様性と地域における交流状況との関係性	大塚芳嵩・那須守・岩崎寛	○
P-01-T	オフィスの個人デスクに設置した植物への接触が勤務者の心理に与える影響	鄭 蒙蒙・矢動丸琴子・中村勝・江口恵五・岩崎 寛	○
P-02-T	根元付近の根系が露出したヒノキ立木の引き倒し抵抗力	島田博匡	
P-03-T	緑化基盤材料に用いられる特殊針葉樹皮改良材の抗菌特性試験	加藤 真 司・吉崎 真 司・鈴木 弘 孝	
P-04-T	都市樹木の葉における粉塵捕集特性への樹種および着葉位置の影響	渡辺基生・戸田浩人・崔東壽	○
P-05-T	厦门市における都市緑化空間と越冬期の鳥相との関係	福井 亘	
P-06-T	造園事業者が京町家の奥庭・坪庭の作庭について重視している点	平松 優生, 福井 亘	

※応募：ポスター賞への応募

■論文・技術報告 ポスターセッション② 9月16日(日) 09:30~15:00

◇ 場所：4号館2階(受付の後ろ側) 学生ホール/コアタイム(12:00~13:00)

No.	タイトル	著者	応募
P-07-T	河川環境の定量評価における河川植生の類型区分に関する一考察	山根 明・服部誠二郎・内田泰三	
P-08-T	高速道路休憩施設の緑地空間に対する地域住民の利用と意識に関する調査	岩崎 寛・牛田圭亮	
P-09-T	高経年住宅団地における高齢住民の緑地利用に関する研究	余 麗娜・岩崎 寛	○
P-10-T	ミズクラゲチップの草本植物に対する施用効果	全 権雨・金 錫宇・寺本行芳・松本淳一・土居幹治・河野修一・江崎次夫	
P-11-T	くらげチップを用いた放置竹林の整備	河野修一・江崎次夫・寺本行芳・松本淳一・土居幹治・金 錫宇・全 権雨	
P-12-T	香川県有明浜における海浜植物の成帯構造とその保全	戎谷 遵・長田美保・岡浩平	○
P-13-T	海浜植物ハマボウフウ( <i>Glehnialittoralis</i> F.Schmidt)の越冬期における実生苗の育成方法の検討と抗酸化能に関する研究	笠島脩平・前田航希・近藤春美・小谷幸司・小島仁志	○
P-14-T	センダン( <i>Melia azedarach</i> Linn.)核の形質ならに発芽特性	池本省吾	
P-15-T	宮城県岩沼市の津波被災海岸林における2014年及び2016年のカワラナデシコ( <i>Dianthus superbus</i> L. var. <i>longicalycinus</i> (Maxim.) Williams)の個体密度の変化	七海絵里香・大澤啓志	
P-16-T	野外播種試験法によるクゲヌマラン( <i>Cephalanthera longifolia</i> (L.) Frisch)の種子発芽および2年間の成長の観察ー埋立地の植栽林における例ー	庄司顕則・伊藤彩乃・赤崎洋哉・松前満宏・山崎旬・遊川知久	
P-17-T	浜田・三隅道路における森林表土利用工による法面緑化の施工事例	大嶋辰也・久保満佐子・西尾隆	
P-18-T	利尻富士と苫小牧市におけるハマエンドウ( <i>Lathyrus japonicus</i> Willd)の葉緑体ゲノムの遺伝変異	伊東時子・我妻尚広・岡本吉弘・森志郎	
P-19-T	オオイタドリ( <i>Reynoutria sachalinensis</i> (Fr.Schm.) Nakai.)の水平地下茎分布とその側芽の特性	田崎冬記・渡邊幸一・村中寿孝・石坂一	
P-20-T	野外播種試験法による埋設種子の長期観察の重要性ー都市緑地のキンラン( <i>Cephalanthera falcata</i> (Thunb.) Blume)を例にー	伊藤彩乃, 庄司顕則, 赤崎洋哉, 松前満宏, 山崎旬, 遊川知久	
P-21-T	廈門市の商業施設における室内植物の利用実態について	烏雲巴根・加藤祥子・趙穎・下村孝・松原斎樹	
P-22-T	生物多様性保全型の緑化目標の提示に向けた植生情報の書誌的検討：石川県を事例に	飯田義彦	



## 5. 研究交流発表会

■研究交流発表会 ポスターセッション① 9月15日(土) 09:30~15:00

◇ 場所: 4号館2階(受付の後ろ側) 学生ホール/コアタイム(12:30~13:30)

No.	タイトル	著者	応募
研交 01	緑化シンボルとしての「市区町村の木・花」 選定種の全国調査結果の傾向と地域性分 析への展開	吉川 慎平・渡部 俊太郎	
研交 02	外来植物群落の動態—水辺の国勢調査に 基づく検討—	友口勇生・内田泰三	○
研交 03	タブレット上で作動する野外での調査や 学習のためのデジタル植物図鑑の作成方 法	中村彰宏・Sawma Jeremiah・ 中山祐一郎・守村敦郎	
研交 04	在来緑化植物ヨモギの外国産緑化個体と 在来個体間の形態及び遺伝的組成の違い	我妻総・下野嘉子・今西純一・ 陶山佳久・満行知花・綱本良 啓・富永達	○
研交 05	ガーデンショー等における使用植物と人 の意識	山本聡	
研交 06	廃道における動植物の侵入	古野宏明・内田泰三	○
研交 07	東京都総合設計制度によって生み出され た公開空地の緑化状況調査(仮)	武田ゆうこ・加藤真司・森岡千 恵	
研交 08	在来野草の緑化利用を目的とした播き出 し試験(仮)	武田ゆうこ・山岸裕・舟久保 敏・今村史子・森岡千恵	
研交 09	立山ルートの緑化とその周辺	大宮徹	
研交 10	千葉県・東京都における精神科病院の緑化 に関する現状調査	佐藤えり・岩崎 寛	○
研交 11	中国内モンゴル自治区における緑化灌木 <i>Caragana korshinskii</i> Kom. の冬季実生 の生残性	田中 晴飛・原 鋭次郎・増田 達 志・山中 典和・衣笠 利彦	
研交 12	屋上緑化土壌におけるバイオ炭混合によ る雨水流出量の削減効果の検証	松岡 達也・土屋 一彬・小山 明 日香・大黒 俊哉	○
研交 13	里山の森林生態系における放射性セシウ ムの動態把握と将来予測	間瀬皓介・斎藤翔・降旗大樹・ 平野堯将・数間理恵・小林達 明・高橋輝昌	
研交 14	「MIG-seq によるメドハギ類の緑化用種 子および緑化法面生育個体の遺伝的特徴 の解析」	今西純一・今西亜友美・陶山佳 久・井鷲裕司	
研交 15	土壌の性質による植物生育に剪定枝堆肥 の施用効果	劉恩璽・高橋輝昌	
研交 16	ヒノキ林化した都市近郊二次林における 強度間伐試験後 18 年経過時の植生	小宅由似・中西麻美・大澤直 哉・柴田昌三	○
研交 17	西日本のブナ林下層におけるチシマザサ 群落の構造および動態	呉崇洋・田中凌太・服部一華・ 藤好恭平・赤路康朗・廣部 宗・ 坂本 圭児	
研交 18	日本国内におけるコマツナギの遺伝的変 異とその地理的分布	今西亜友美・今西純一・井鷲裕 司	
研交 19	複合商業施設での緑陰空間における人の 行動と心理反応	井上純大・日下部友昭・藤田昌 志・三坂育正・成田健一	
研交 20	都市スケールモデルサイトを用いた夏季 の樹木の暑熱緩和機能の把握	井上純大・日下部友昭・藤田昌 志・三坂育正・成田健一	
研交 21	広島県松永湾における土壌特性が塩生植 生の種多様性に与える影響	長田美保・岡 浩平	○
研交 22	土壌の化学的・生物的性質が Tea bag index を指標とした有機物分解特性 に与える影響	人見拓哉・岩佐駿太郎・高橋輝 昌	

※応募: ポスター賞応募者

■研究交流発表会 ポスターセッション② 9月16日(日) 09:30~15:00

◇ 場所: 4号館2階(受付の後ろ側) 学生ホール/コアタイム(12:00~13:00)

No.	タイトル	著者	応募
研交 22	土壌の化学的・生物的性質が Tea bag index を指標とした有機物分解特性に与える影響	人見拓哉・岩佐駿太郎・高橋輝昌	
研交 23	沖縄島北部地域河川における河畔林整備	大嶺匡史・徳丸慶太郎・大城政人・大城尚司	
研交 24	自生種緑化工法による高濃度火山ガスに応じた木本の生育	小川泰浩・上條隆志・岡部宏秋・石森良房	
研交 25	自然に関わる社会的活動を志す学生の自然との関わりに関する研究	三島らすな・倉本宣	○
研交 26	丘陵地の大学構内に植栽された緑化木の15年間の生育状況	井村瑞樹・高木正博	
研交 27	雁ノ巣海岸における外来植物の侵入	出嶋 誠・東 哲平・内田泰三	
研交 28	苗木の流通とこれに伴う生物の拡散	東 哲平・内田泰三	
研交 29	北海道十勝岳美瑛川の大正泥流流下・堆積区域における樹木残存・流失実態と樹木残存限界評価	金 正賢・浅野 仁・本間宏樹・池上 忠・山田 孝・笠井美青・南里智之・丸谷知己	
研交 30	屋上緑化現場での強風に対する生理・形態的応答樹種間比較	難波結希・井上純大・中垣昌哉・野口結子・藤田昌志・石井弘明	○
研交 31	数種の道路土工指針掲載草本植物に対する早期発芽力検定法の開発	小野幸菜・吉田 寛	
研交 32	“阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト” 草原再生への活用を目指したススキ種子現地採取の試み ―採取から性状調査まで―	吉原敬嗣・入山義久・内田泰三・小野幸菜・田中淳・津田その子・橘隆一・今西純一・中村華子・中島敦司	
研交 33	高速道路緑地の将来像の検討方法について	宮腰瑛梨・上村恵也・加藤湧真・佐藤信昭	
研交 34	東北地方におけるツキノワグマ行動特性について	大槻知弘・上村恵也・佐藤紀由	
研交 35	大規模緑地は都市をどれくらい冷やしているか?	菅原広史	
研交 36	侵入性外来樹木トウネズミモチの生理特性に関する研究	原千夏・難波結希・中垣昌哉・山田佳乃・石井弘明	○
研交 37	大三島山火事跡地の再生状況	全 権雨・金 錫宇・寺本行芳・河野修一・江崎次夫	
研交 38	笠松山山火事跡地の回復状況	河野修一・江崎次夫・全 権雨・徐 正一・寺本行芳・松本淳一・土居幹治	
研交 39	「くらげチップ」を活用した海岸防災林の造成	寺本行芳・全 権雨・金 錫宇・松本淳一・土居幹治・河野修一・江崎次夫	
研交 40	史跡内のオンツツジの移植	河野修一・江崎次夫・高山 剛・亀澤一平・日平治男・谷清・村尾良男・伊勢屋重一・毛利正幸・寺本行芳・金 錫宇・全 権雨	
研交 41	「くらげチップ」を用いたネズミサシの樹勢回復	江崎次夫・下條信行・幡上敬一・織田誠司・松本淳一・土居幹治	
研交 42	木本植物に対する「ミズクラゲチップ」の施用効果	全 権雨・徐 正一・河野修一・江崎次夫・寺本行芳・松本淳一・土居幹治	
研交 43	除草回数が増える外来草セイバンモロコシの成長に及ぼす影響	山根明・友口勇生・内田泰三・早坂大亮	

## 6. シンポジウム

今年、日本緑化工学会設立 30 周年に当り、それを記念致しましてシンポジウムと見学会を各研究部会と連携して進めることと致しました。大テーマ「持続可能な都市創造に果たすみどりの役割」に基づいて、東京都市大学涌井教授に基調講演を頂き、またいくつかの研究テーマごとに発表を行ないます。そのテーマに沿って現地見学と意見交換会を開催します。

日時：2018 年 9 月 15 日（土） 15:30～17:45 会場：3 号館 2 階 32A 教室

(1) **基調講演**：持続可能な都市創造に果たす「みどり」の役割

東京都市大学特別教授 涌井史郎氏

(2) **テーマ発表**

テーマ(1)：都市防災：特に樹木の防災能力と維持、管理について

日本緑化工学会副会長 木田幸男氏

テーマ(2)：屋上緑化の多様な評価手法について

米国農務省が進める i-Tree Eco 生態系サービス評価の試み

都市緑化技術研究部会長 梶川昭則氏

テーマ(3)：市民科学とボランティア

生物多様性緑化研究部会長 倉本 宣氏

テーマ(4)：住民の健康と緑化

緑・健康研究部会長 岩崎 寛氏

(3) **まとめと見学会の説明**

日本緑化工学会副会長 吉崎 真司氏

## 7. 現地見学会

(1) 概要

東京都世田谷区の二子玉川エリアは、「フタコ」、「ニコタマ」という愛称で呼ばれている場所です。「水と緑と光の豊かな周辺環境と調和したまちづくり」を目指して再開発事業が進められ、2014 年には米国グリーンビルディング協会が所管する環境性能評価「LEED ND（まちづくり部門）」においてゴールド本認証を取得した地域です。そのために、環境配慮への様々な取り組みが多くなされています。今回の現地検討会では、大会シンポジウムのテーマとした「持続可能な都市創造に果たすみどりの役割」を現場で体感し、会員間で議論をしながら今後の都市緑化を検討する場を設けることと致しました。

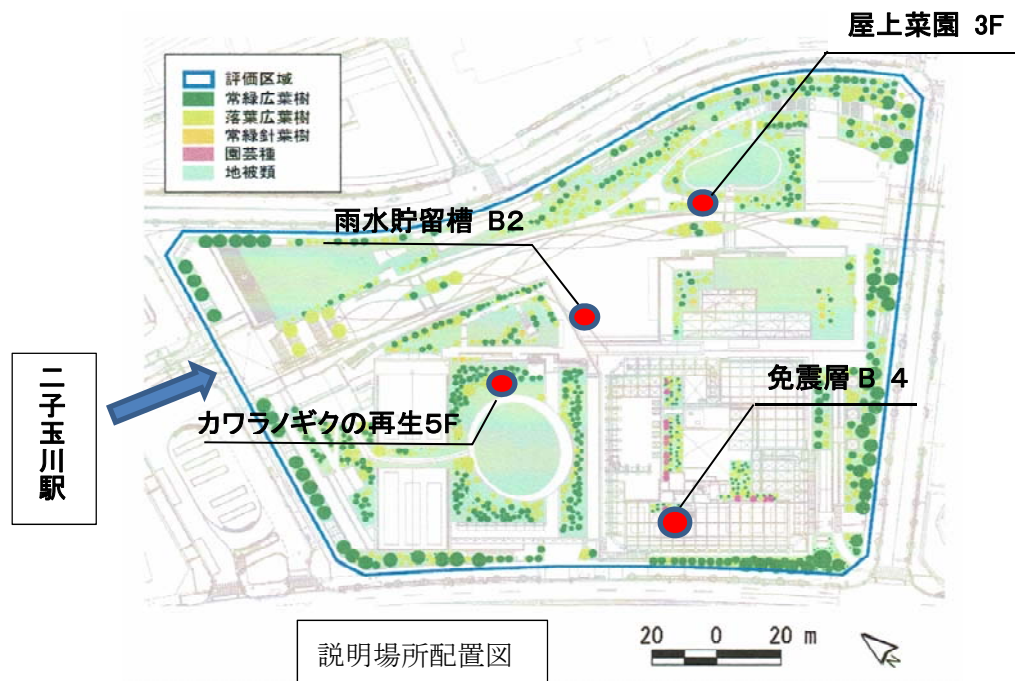
(2) 実施日時：2018 年 9 月 17 日（月） 10:00～16:00 （昼食持参でお願いします。）

10:00 東京都市大夢キャンパス集合（田園都市線二子玉川駅徒歩 3 分）

10:00～10:30 二子玉川ライズのまちづくりについて

東急電鉄株 都甲氏





(各テーマ別現地見学の内容)

### テーマ(1)：都市防災：特に樹木の防災能力と維持、管理について

都市防災における樹木の役割は重要である。これまでの阪神大震災、東日本大震災他からの知見を元に、樹木の防火能力や避難路確保を前提とした植栽技術、活性化手法およびその診断技術について検討する。場所はライズ地区もしくは周辺の街路樹をお借りして実施・検討したい。防災能力を高めるには樹木が健全でなければならない。そこで、その概観診断と評価方法を、街路樹診断協会の協力を得て、評価の基準や機器による精密診断などの手法も公開したい。

### テーマ(2)：屋上緑化の多様な評価手法について

市民にとって樹木の多様な評価は感じることは出来ても、それがどの程度のものなのか定量化は難しい状況である。米国農務省が進める i-Tree 生態系サービスは、多様な樹木の評価を定量化し総合的に判定する注目される手法である。今回 i-Tree の専門家である DAVEY の平林氏を交えて、二子玉川ライズなどの大規模屋上緑化の樹木評価の説明や実践を行う。また近年豪雨対策で雨水の流出抑制をグリーンインフラを導入して高めるねらいがあるが、屋上緑化に関しては評価対象から外れているのが現状である。この雨水流出効果について評価方法の進捗状況を説明する。

### テーマ(3)：市民科学とボランティア

緑の分野は市民にとって身近な分野でありながら、業界と市民との関連はこれまで希薄であった。緑の分野が社会のなかで適切に位置づけられるためには、なすべきことをなす人々である「市民」によって構成されるボランティアとの連携と、科学的な興味と態度を

身につけた市民との連携が欠かせない。隣接する二子玉川公園におけるユニークなボランティア活動を例に、ボランティアと市民科学について考えてみたい。

#### テーマ(4)：住民の健康と緑化

超高齢化による地域ケアの推進や、オフィスにおけるストレスチェックの義務化など、身近な環境における心身の健康維持が必要とされている。これからの都市緑化は、従来の緑化機能に加え、これら健康に寄与する機能が求められている。今回は、エリア内にオフィスがあり、地域住民の利用も多い二子玉川ライズにおいて、緑化現場を見学し、見学後はミニワークショップを開催し、利用者の心身への健康効果について参加者と検討する。

##### (3) 費用について

見学会は会員の方は無料になります。非会員の方は 500 円徴収（当日夢キャンパスで徴収）させていただきます。ただし学生は無料です。

##### (4) 申し込み方法

〔申し込み締切り〕 2018 年 9 月 10 日（月）まで

〔申し込み先〕 企画・事業部会 福井亘（京都府立大学）[wfukui@kpu.ac.jp](mailto:wfukui@kpu.ac.jp)

メールでお申し込み下さい。件名には「第 49 回日本緑化工学会・見学会申し込み」とし、本文に次のことを記載してください。

①見学希望テーマ番号

②お名前

③所属名

④連絡先携帯番号

各テーマで定員が 25 名になります。

## 8. 研究集会

### (1) 研究集会 1 「都市河川の礫河原再生の方向性－その規模と配置の検討－」

日時：2018 年 9 月 15 日（土）13:30～15:30

場所：3 号館 3 階 33I 教室

話題提供：倉本宣（明治大学）五味高志（東京農工大学）知花武佳（東京大学）金子弥生（東京農工大学）岡田久子（明治大学）伊東静一（明治大学）

趣旨：都市河川のような多摩川での礫河原の再生（すべての再生事業？）では、「かつての河原に戻す」ことは、これまでに採取された礫の量と礫の供給量の関係から、もはや困難になっている。保全対象となる生物相（たとえばカワラノギクなど）が最低限必要とする礫河原の配置や規模などが重要になる。逆に、河川敷内の樹林地や草地をハビタットとする動物にとっては、礫河原の配置や規模などをどのように捉えるべきかの検討も必要である。そこで、礫河原の生態的機能が維持される、ダイナミズムを維持できる規模と配置について検討したい。

あわせて、河川敷に近接して居住している市民に対するアンケートの結果についても報告し、自然側からの検討と対比する。

(2) 研究集会2「緑化斜面のシカ食害の実態から考える植生管理のあり方」

日時：2018年9月15日（土）13:30～15:30

場所：3号館3階33K教室

趣旨：シカ生息域において実施された斜面緑化施工地のシカ食害が増加しています。シカ食害は、緑化植物の採食に伴う植生の衰退・裸地化だけでなく、踏み荒らしによる侵食の発生、侵食に伴う排水路の閉塞、地質によっては落石の発生など、斜面保護機能自体にも大きな影響を与えます。今回の合同研究集会では、緑化斜面およびその周辺環境にも視野を広げ、シカ食害について、以下の4つの話題提供を基に議論を行います。

昨年のELR2017では、研究集会「斜面緑化におけるシカ被害の現状と課題（斜面緑化研究部会主催）」を開催しました。その第2弾ともいえる企画です。斜面緑化の課題の一つとして、シカによる食害の実態を切り口にして整理していきますが、その先には、そもそも牧草を主体に緑化植物を導入している法面緑化業界の現状があります。牧草を止めて別の、例えば不嗜好性植物にするのか？物理的に排除するのか？そこには地域性種苗による緑化というテーマも横たわっています。課題はあちらこちらにつながっていて、問題山積という状態が改めて浮き彫りになりそうですが、集会後半に皆さんと議論し、そこに解決の糸口を見出していきたいと思えます。

話題提供：司会・総合討論 橘 隆一（東京農業大学 地域環境科学部）

1. 緑化斜面におけるシカ食害の現状と課題

(SPTEC・YAMADA 山田 守)

2. 神奈川県におけるシカによる森林被害の実態

(神奈川県 県西地域県政総合センター 森林保全課 永田幸志)

3. シカの嗜好性植物である牧草の拡散能力と拡散を抑える管理の可能性

(農業環境変動研究センター 生物多様性研究領域 江川知花)

4. 生態系保全とシカ問題への対応からみた在来植物の優位性

(和歌山大学 システム工学部 中島敦司)

(3) 研究集会3「ラン科など移植困難植物の野外播種試験を用いた保全

日時：2018年9月16日（日）13:00～15:00

場所：3号館3階33K教室

開会挨拶・趣旨説明：庄司顕則（株式会社緑生研究所）

趣旨：開発事業等における環境保全措置として、植物の移植が広く行われている。しかしながら、ラン科等の共生菌が成長に不可欠な植物は移植後の活着率が低いことが多く、これらの移植困難植物の保全が喫緊の課題となっている。一方、土壌中の環境と共生系の把握をめざした野外播種試験法（自生地播種試験法）による保全手法が注目されつつある。これは、種子を入れたパッケージを地中に埋設した後に定期的に回収し発芽状況を観察することによって、種子発芽特性および共生菌の種類や分布を特定する手法である。本手法は

移植困難種の保全を行う上で実践的な技術となるばかりでなく、土壌中の生物群集に関する学術的知見も得られる手段として、幅広い応用が期待できる。移植困難種の保全に際してなぜ野外播種試験が必要なのか、それを保全現場にどのように活用できるかについて、先行的・応用的な事例を紹介しつつ会場を交えての議論の場としたい。

・話題提供：共生菌に栄養依存する移植困難植物の野外播種試験を用いた保全

(国立科学博物館筑波実験植物園 遊川知久)

・事例紹介

1. 全国の道路事業における移植困難種の事例と課題

(国土交通省国土技術政策総合研究所 大城 温)

2. 移植適地判定試験としての野外播種試験 ～オオバノトンボソウを例として～

(千葉大学教育学部 大和政秀)

3. 野外播種試験の着生ランへの応用

(鹿児島大学連合農学研究科 佐賀大学農学部 蘭光健人)

4. 野外播種試験はツツジ科(旧イチヤクソウ科)にも有効 ～南限地におけるオオウメガサソウ保全のための取組み～

(ミュージアムパーク茨城県自然博物館 伊藤彩乃)

5. 野外播種によるキンランの人工繁殖事例 ～種子スティックの紹介～

(玉川大学農学部 山崎 旬)

6. 野外播種試験法を用いた移植困難種の野生復帰

(株式会社緑生研究所 庄司顕則)

## 9. 託児施設に関すること

託児に関する情報が必要な方は、[ryokkakou49@tcu.ac.jp](mailto:ryokkakou49@tcu.ac.jp) までお問い合わせください。なお、メールの表題は「託児施設」としてください。

## 10. 会場までのアクセス

羽田空港➡京急空港線➡横浜➡横浜市営地下鉄➡中川駅下車、徒歩7分

羽田空港➡バスにて新横浜駅行➡横浜市営地下鉄乗換➡中川駅下車、徒歩7分

羽田空港➡バスにてセンター北行➡横浜市営地下鉄乗換➡中川駅下車、徒歩7分

新幹線新横浜駅➡横浜市営地下鉄乗換➡中川駅下車、徒歩7分

渋谷方面➡東急田園都市線あざみ野駅➡横浜市営地下鉄乗換➡中川駅下車、徒歩7分

## 11. 大会運営委員会

委員長：吉崎真司 副委員長：飯島健太郎 事務局：横田樹広

運営委員：田中賢治，加藤真司，武田治夫，庄司顕則

【事務局連絡先】



〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3-3-1  
東京都市大学横浜キャンパス・環境学部吉崎研究室内  
第 49 回日本緑化工学会大会事務局  
TEL : 045-910-2556 (吉崎) FAX : 045-910-2557  
E-Mail : [ryokkakou49@tcu.ac.jp](mailto:ryokkakou49@tcu.ac.jp)

12. その他（昼食と車の乗り入れについて）

9月15日（土）、16日（日）は、両日ともに11:00～13:30の間、学食を営業していただいておりますので、ご利用ください。

許可された車以外、学内への入庫はできません。公共交通機関をご利用ください。